

羽場・丸山 地域の「今」を知り「未来」を考える

皆さんは自分の生まれ育った地域の人口、年齢構成、そしてこの先の人口増減を知っていますか。

今年度、羽場・丸山地区では地区の基本構想を見直し、これからどのようにしていきたいかをみんなで意見を出し合って新たな構想をつくるそうです。そこで、私たちも自分自身が考える・感じる地区の魅力やもっと魅力的な地区にするためには何が必要か、羽場・丸山地区の皆さんと意見交換をしました。

はじめに、令和7年度「20地区田舎へ還ろう戦略」の取組として羽場・丸山地区の人口診断について館長さんから説明をお聞きしました。診断結果はそれぞれ異なり、このままでは、羽場の人口は「安定」、丸山の人口は「減少」ということでした。その後、それぞれの地区に分かれて魅力と感

じることなどについて話をしました。羽場地区では、市街地やアップルロードなど、色々なところに出て行きやすい立地で、「住みやすい」という魅力が話題となりました。



丸山地区では、都会では絶対にあり得ない街中でのあいさつ（知らない人でも）など、地域の人たちの「あたたかさ」という魅力が話題となりました。

また、飯田で暮らし続けたいけれど離れてしまう理由に、希望職種がなかったり、能力を活かせる場が少ないことがあると

伝えたところ、地域の皆さんも同じ思いだということになりました。

今回の座談会を通して、中学時代ぶりに地域のことを話した気がします。地元を離れている人たちが多くいますが、離れたからこそ気づけた魅力をシェアすることができたり、地元について地域の皆さんと一緒に話せた時間がとても楽しかったです。

また、何となく感じていた地元の魅力に理由付けができて嬉しくなりました。私たちの声を聞いてくれた地域の皆さんに感謝し、これから先どこにいても何をしても、羽場・丸山のことを思い出したり、考えることができる人になりたいと思いました。

橋北・橋南・東野 りんご並木今昔物語

りんご並木は、飯田の象徴として、また東中学校の伝統として、地域の皆さんの協力を得ながら大切に受け継がれてきました。20歳の節目に、りんご並木の現在を改めて知りたいと思い、実際にりんご並木の収穫作業に参加し、地域の方から話を聞きました。

東野まちづくり会議の大場会長からは、並木の木々が弱ってしまい、やむを得ず切られたものもあると伺いました。美しい景色が続く裏側では、長い年月の中で守り続けるための苦労や努力が積み重なっていることを知り、私たちはこの並木をこれまで以上に大切に感じるようになりました。

また、東野公民館の佐々木館長からは、りんご並木だけでなく、その先に続く桜並木も含めて盛り上げようとする新しい動きを教えてくださいました。浜井場小の児童や幼稚園児による行灯づくりなど、若い世代の参加によって、まちの意識がりんご並木から桜並木へ広がっているといえます。「車の通る道ではなく、人が歩いて楽しめる道に」という願いには、飯田をさらに魅力的な場所にしたい思いがこめられていました。現並木委員長の麦島さんの話では、少子化で生徒数が減り作業負担が大きくなっている現状を知りました。

夏の草取りや摘果、除草などは決して楽ではありません。それでも、生徒たちが誇りをもって作業に関われるよう工夫を続け、小中の連携を強めながら未来へつないでいこうとする姿勢が印象的でした。

りんご並木は幅広い年代から愛され、関わる人それぞれの思いがあることを知りました。特に、人が歩いて楽しめる道という言葉が心に残り、並木沿いには飯田のりんごを使ったカフェなどもあるので、もっと利用する人が増えるといいなと思いました。

久しぶりの収穫作業は少し大変でしたが、東中のジャージに手ぬぐい姿が懐かしさを感じ、その分心に残る時間になりました。

並木作業を通じて、りんご並木は地域や小学生などの交流の場でもあることを再認識しました。これから



も、地域の魅力として長く愛され続ける場所であるよう見守って行きたいと思います。

座光寺 麻績の里の思い出

座光寺は、歴史と自然、そして温かい人々の営みが息づく「麻績の里」として知られています。そのシンボルが、樹齢約400年を誇る舞台校舎です。この一本桜に隣接する舞台校舎（旧座光寺麻績小学校校舎）は、木造建築で歴史があり、また黒光の床は魅力の一つです。

私が子供の頃の思い出にも、麻績の里の中心にある麻績神社の広場があります。小学生の私は、この広場で学校帰りに日が暮れるまで友達と毎日のように草野球をして過ごしました。とても楽しく今でも思い出すくらい宝物のような時間でした。

また、神社の春祭りでは獅子舞が町を練り歩き、天狗に追いかけられたりと子供心をくすぐられるイベントもあり、伝統文化としても受け継がれています。

振興委員会主催の桜まつり



こうした里の風景と文化が守られているのは、熱心な活動を続ける人々の存在があってこそです。今回、地域の魅力再発



振興委員会会長とオンラインでお話

見として、麻績の里一帯の保存活用を行っている「麻績の里振興委員会」の会長のお話をお聞きました。

お話を聞く中で、麻績の里振興委員会は、桜を囲う杭の交換をするなど、舞台校の繊細な手入れを行い、美しい景観を維持していることが分かりました。また、春の桜祭りの運営、夏の夏祭りの提灯付け、そして大晦日の幻想的な竹宵の点灯といった、里の四季を彩る祭事の全てに尽力されていることも知りました。

舞台校、舞台校舎、そして麻績神社の広場で遊んだ思い出は、座光寺の人々の思い出に深く根付いていると思うし、麻績の里振興委員会をはじめとした座光寺の皆さんの活動によって、これからも多くの人の思い出になると思います。

上郷 上郷小学校の最大の魅力にここ

私たちは、母校の上郷小学校で地域の魅力について取材を行いました。私たちが卒業して8年、時代は大きく変化してきました。そこで、この8年で変わったことについて、現在の校舎を見学し、教頭先生にお話を聞きました。私たちが6年間を過ごした上郷小学校の変化、昔から変わらない上郷小学校の魅力を紹介します。

大きく変わった変化の一つは、学習のIT化です。現在は、1人1つのタブレットが支給され、授業でも積極的に使われています。タブレットを利用した授業では、意見をタブレットに入力して意見の交換を行ったり、学習のまとめを行ったりして学びを深めており、IT機器を用いた授業を通して、自分の意見をなかなか発表できない子どもでも積極的に授業に参加することができているそうです。IT化に伴い、ネットリテラシーや情報モラルについて小学生のうちから身に着けることができ、現代の情報社会に対応していくきっかけになると感じました。

さらに、放課後児童クラブについても大きな変化が見られました。今まで地域の3か所に分かれていた児童館を統合し、上郷小学校の1階部分に児童クラブを設置することで、多くの子どもが放課後の時間を過

すことが出来るようになっていました。児童クラブは現在120人弱の子どもが利用しているそうです。児童クラブが統合されたことで、子ども同士の関わりが増え、地域での深い関係づくりにつながるとともに、小学校内で過ごせることで保護者も安心して預けることができるようになりました。

大きな変化がある中で、昔から変わらない上郷小学校の魅力もありました。私たちが小学校で守ってきた「挨拶・清掃無言・やまびこ放送」の3つの学校の宝は、今でも変わることなく守られていました。教頭先生が上郷小学校を一言で表すと「ここに」だと挙げていた裏には、長年守られ続けている学校の宝や、学校目標の「やる気・思いやり」に大きな影響があり、上郷小学校の魅力であると感じました。



上久堅 地域の味、あの日の記憶

今回の地域学習では、五平餅作りの体験と、小学校の中を巡る活動を行いました。どちらにも私にとって思い出に残る内容であり、地域の文化や歴史に触れる貴重な時間になりました。五平餅作りは小学生の頃にも体験したことがありましたが、あらためて参加してみると、当時とは違う気づきや学びがあったと感じました。

五平餅は、この地域で昔から親しまれてきた郷土料理で、味噌や醤油を混ぜたタレをつけて焼く香ばしさが特徴です。今回の体験では、まず炊き上がったご飯をすりこぎでつぶす作業から始まりました。粒が少し残るくらいに調整するのは意外と難しく、力加減を意識しながら丁寧につぶしました。次に、そのご飯を竹の串に丸くつける工程に移りましたが、形が崩れないようにするには思ったよりコツが必要でした。最後にタレを塗って



焼くと、香ばしい匂いが広がり、地域の味を自分の手で作る楽しさをあらためて実感することができ



ました。小生の時は「楽しい」という気持ちでしたが、今回は「地域に根付いた食文化を受け継ぐ大切さ」を意識できたことが大きな違いだと思いました。

五平餅作りの後は、通っていた小学校の中を巡りました。卒業してから時間が経ちましたが、校舎や教室を見ると当時の記憶が鮮明によみがえってきました。廊下を歩くと、友達と走り回ったことや、授業で使っていた道具、行事で練習した歌やダンスのことなど、懐かしい思い出が次々と浮かんできました。特に印象に残ったのは、体育館での遊びです。自分達が使いたいボールを跳び箱の中に隠して怒られたり、スーパードッチなど小学生の頃にやったことを思い出して懐かしい気持ちになりました。今回の地域学習を通して、五平餅という地域の味と、小学校で過ごした当時の記憶の両方を振り返ることができました。地域の文化や歴史は、特別な場所にあるのではなく、日常の中に自然と存在しているのだと感じました。これからも地域への関心を持ち続け、今回学んだことを大切にしていきたいと思っています。

上久堅 特産品で地域とつながる

上久堅には「小野子人参」・「小野子のごぼう」という地域を代表する特産品があります。小野子地区の気候とミネラル成分を多く含む赤土で育つこれらは色が濃くて甘みが強く、香り高い味が特徴です。また一般的ななものより長いのも大きな特徴です。私たちは今回、この小野子人参と小野子のごぼうを使って人参クッキー・人参力ツブケーキ・ごぼうチツブスを作り、地区の文化祭で販売しました。



文化祭の前に小野子人参の現状を知るために小野子人参クラブの方々にお話を伺いました。年々育てる人が減ってきていること、適切な気温の時期にしか芽を出さないこと、さらに今年は猛暑の影響で例年よりも芽を出した数が少ないことなどを教えていただきました。そのような状況でも芽を出して大きく成長している畑を見て、小野子人参クラブの方々が手間をかけて大切に育てていることが伝わってきました。私たちも一度、小学生の時に学校の畑に赤土を運んで小野子人参の栽培に挑戦しましたが、上手く育てられず

難しさを感じた記憶があります。

文化祭当日は朝早くから準備をはじめ、三品の製作に取りかかりました。量が多く想定よりも時間がかかってしまいましたが、会場で売る人、商品を作る人、ラッピングする人と分担しながら進め、地域の方にも手伝っていただきながら無事に作り終えることができました。「売れなかつたらどうしよう…」という不安もありましたが、商品を並べたすぐから多くの方が買いにきてくださり、思っていた以上の速さで完売してとても嬉しかったです。購入してくださった地域の方から「美味しかったよ」と言っていただけでたので頑張っ

てよかったなと思いました。

今回の活動を通して地区の特産品にもう一度関わることができたことを非常に嬉しく思うと同時に、上久堅の方々のあたたかさを改めて感じることができました。こんな素敵な上久堅を誇りに思いますし、これからも大切にしていきたいです。

松尾 第1回ステアクライミング大会in鳩ヶ嶺八幡宮

松尾地区では、二十歳の集い実行委員として集まった男3人で11月8日に鳩ヶ嶺八幡宮で初めて開催されたステアクライミング大会に参加してきました。

はじめに、ステアクライミングとは超高層ビルやタワーなどの階段を頂上まで駆け上がるスピードを競う競技です。会場となった鳩ヶ嶺八幡宮正面の階段は、1段の高さが約22cmで垂直方向に約17m、全77段の石段を1段飛ばしをせずに駆け上がるというルールのもと、開催されました。

子どもから大人まで計18人が出場し、その中には女性や77歳の高齢の方も一緒にステアクライミングをしました。正直、大変そうだから軽くやればいいいやと思っていましたが、小学生、中学生に負けていけないとライバル心が出てしまい、自分の出せる本気で取り組みました。上り始めは「行けるな」と思いましたが、段を重ねるごとに足が重くなり、運動不足を思い知らされました。石段の周りでは、地域の方たちが大



きな声で声援を送ってくれており、無事11段を上りきることができました。実行委員長の林靖人さん、通称『やっつくん』は「継続して開催することで各地の大会とツアーのよう

に参加してもらい、神社を多くの人に知ってもらいたい」と話してくれました。記念すべき、第1回目のステアクライミングに参加することができて本当に良かったです。

『やっつくん』は、二十歳の集いの急な参加も快く受け入れてくれ、自分たちの事を「俺

の子どものようなもん」と親しみをもち「迎え入れてくれました。改めて、地域の方たちとの繋がりが温かみを感じることができ、嬉しく感じました。私たちが無事成人の日を迎えることができたのは、家族はもちろん地域の方

鼎 鼎の伝統芸能「獅子舞」の魅力を探る

私たちの住む鼎地区の伝統芸能には獅子舞があり、10地区のうち8地区に存在します。飯田の地区内で一番獅子舞が多く盛んなことや、幼少期に獅子舞を習っていたこともあり、今回改めて獅子舞について調べることになりました。

まず最初に飯田市美術博物館にお邪魔して、学芸員の近藤さんと中山さんから獅子舞について話をお伺いしました。下伊那には沢山の獅子舞がありますが、地域によって特徴や文化が様々であることを学びました。そこで実際に演舞を見てみたいと思い、獅子舞フェスティバルに参加しました。



名古熊地区は、伊賀良の後藤伊作さんから教わったそうです。小学生はお囃子教室から笛などを地域の大人から学び、大きくなるにつれて獅子舞に携わるそうです。上茶屋地区は黒獅子で高森町の大島山瑠璃寺の舞いを受け継ぐ獅子舞です。宇天王と猿が居る獅子舞と演舞するのが特徴です。上山地区は昭和8年に発足し、現在は5代目の獅子頭を使用しています。道中舞8曲と本舞1曲があり、本舞では、最後に家々の玄関に舞い込むのが特徴です。中平地区は、青い幌とおかめ・きつねが特徴です。「青」は、復活の色として尊重され、獅子は動く神座として神を宿し、五穀豊穡、家内安全を祈念して舞われています。切石地区は演舞、舞曲は厄払いの本舞1曲と道中舞の2曲があり、赤鬼と青鬼が脇役として共に練り歩くのも特徴です。各地域の獅子舞には異なる特徴がありますが、どこも共通して自分の地域の伝統を愛して守っている姿が見られました。今回の学びを通して、私たちも鼎の素晴らしい伝統を守っていききたいと思いました。

獅子舞フェスティバルでは、8地区すべての獅子舞の演舞を拝見し、関わる方からご自身の地区の獅子舞の特徴や魅力についてお伺いしました。下山地区の特徴は獅子頭の角が一本で「一角獅子」と呼ばれており、これはとても珍しいそうです。一色地区は、5種類の舞い方があり、宇天王とごどもの傘踊りがあるのが特徴です。東鼎地区は新しくできた獅子舞です。首筋に鯨幕を思わせる白いたてがみ線が入っているのが特徴です。